

# 救急ワークステーション機能を活かした救急救命士の教育体制

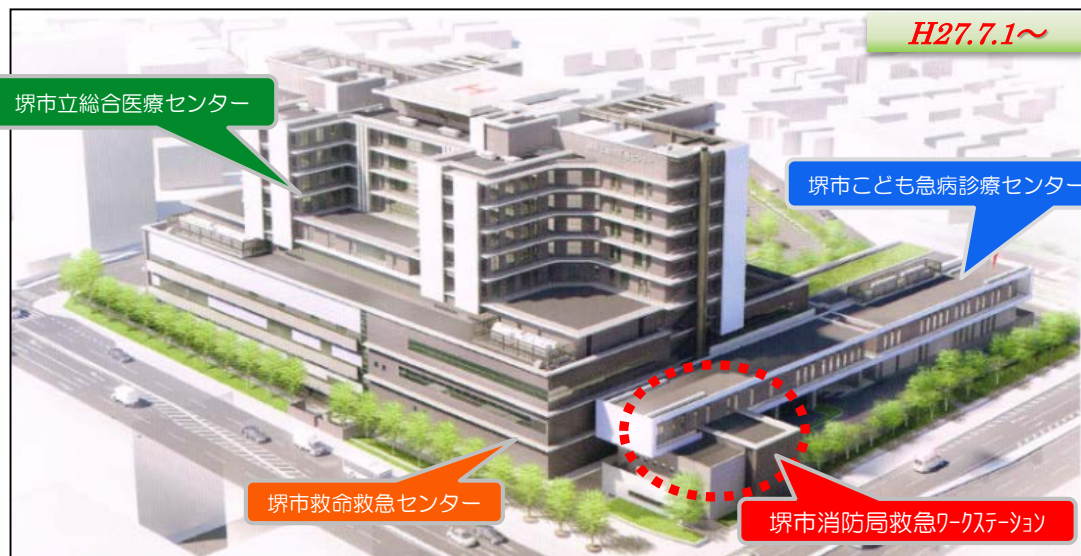
～さらなる救命技術の向上を目指して～

## 大阪府堺地域メディカルコントロール協議会

- ・消防局:堺市消防局
- ・人口総数:89万719人
- ・救急隊数:21隊 (特別救急隊1隊、乗換隊2隊含む)
- ・配置救急救命士数:109名(救急救命士総数137名)

1消防局1MC体制

(平成29年10月1日現在)



Phoenix Ambulance



大阪府堺地域メディカルコントロール協議会

堺市消防局 堀 英治

----- Osaka Prefecture Sakai-Area Medical Control Council -----

【教育体制の確立 I】 人事配置戦略 (救急ワークステーションに**指導救命士**と**新規救命士**を配置)

救急課 救急指導係

(救急ワークステーション内)

救急ワークステーション所長 1名 (救急科)

【毎日勤務者】

- 主幹 1名 (指導救命士)
- 係長 1名 (指導救命士)
- 係員 1名 (救急科)

【特別救急隊】

- 隊長 4名 (指導救命士)
- 隊員 6名 (新規救命士)

(消防局内)

【本部救急隊】

- 隊長 4名 (指導救命士)
- 隊員 2名 (新規救命士)
- 隊員 4名 (救急科)

新規救命士を  
3か月ごとに2名ずつ  
ローテーション異動



救急ワークステーション



消防局 (本部)

## 【コンセプト】

新規救命士を1年間、集中的に教育指導

☞ 救急救命士として...

自信を持って判断・活動が行えるようになること。



1年後・・・

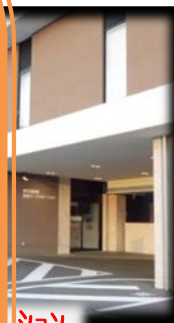
☞ 新規救命士を各消防署へ人事異動

☞ 新たに新規救命士を迎え、集中教育開始

新規救命士

3か月ごとに2名ずつ  
ローテーション異動

・隊員4名(救急科)



ワークステーション

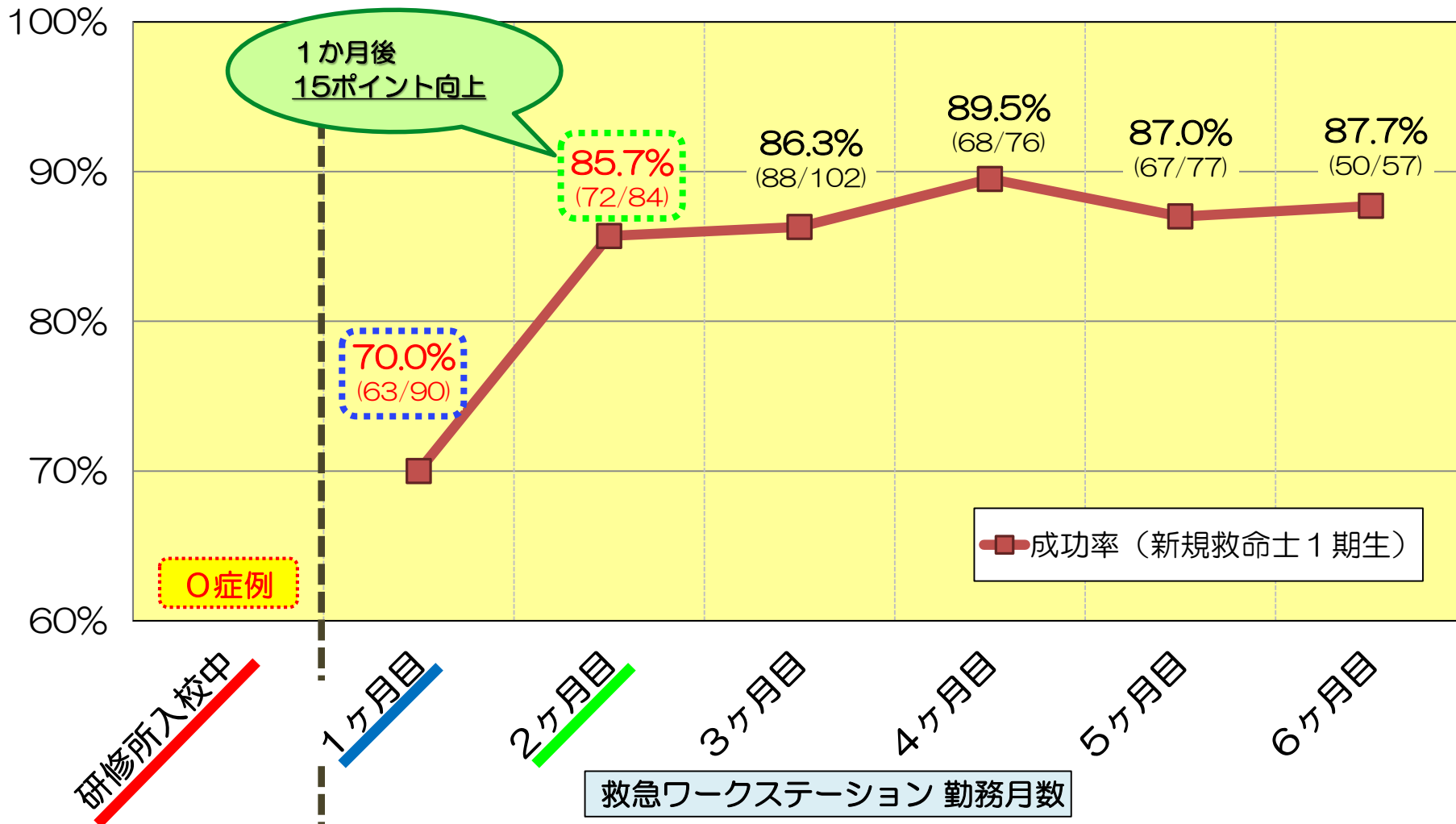


消防局 (本部)

## 新規救命士（1期生・8名）静脈路確保 成功率の推移

【実施期間】 平成27年7月1日～平成28年3月31日

【静脈路確保実習実施数】 全486症例 **1人あたり平均60症例**

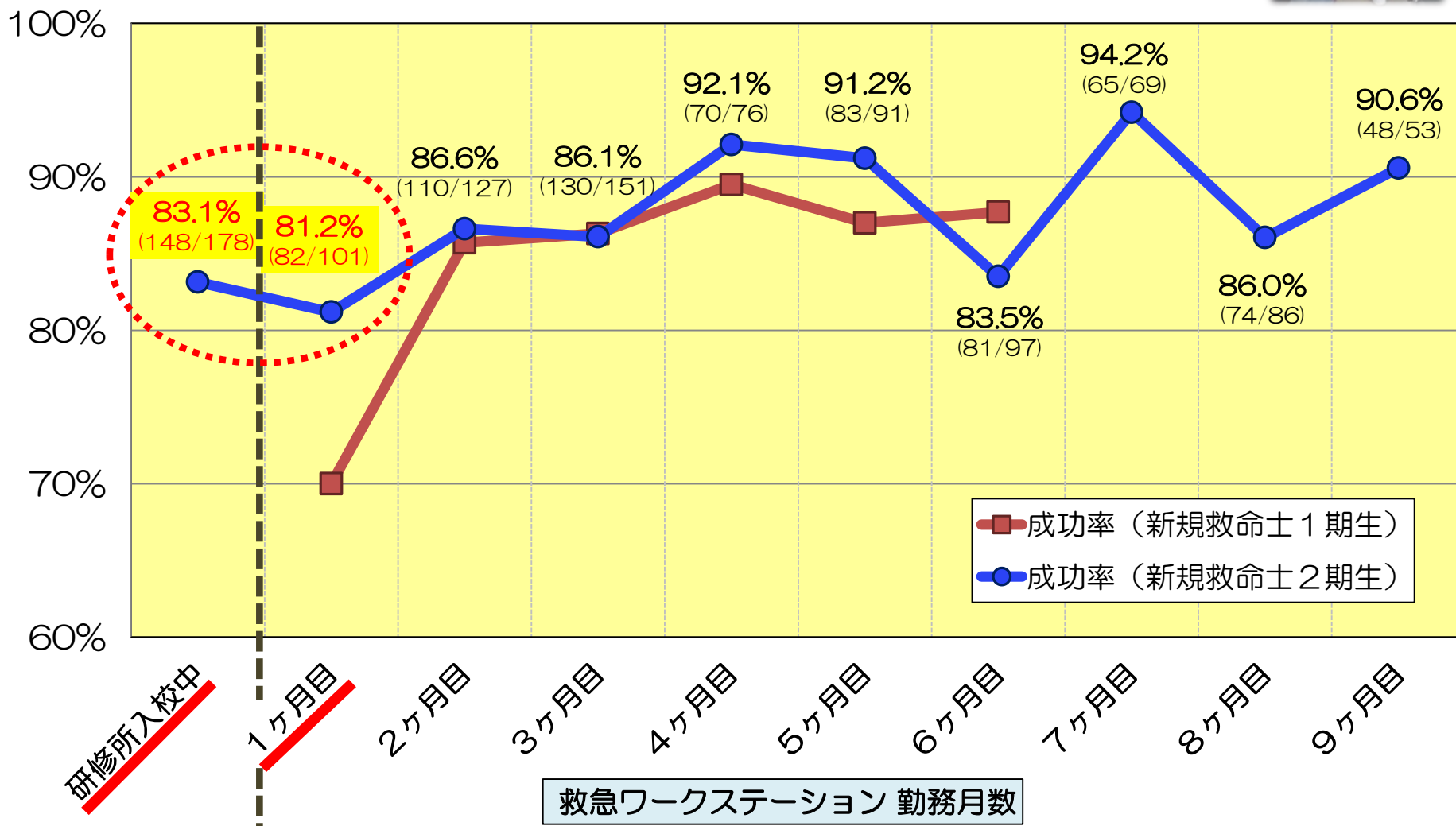


## 新規救命士（2期生・8名） 静脈路確保 成功率の推移（1期生との比較）



【実習期間】 平成28年4月1日～平成29年3月31日

【静脈路確保実習実施数（研修所入校中を除く）】 全850症例 **1人あたり平均106症例**



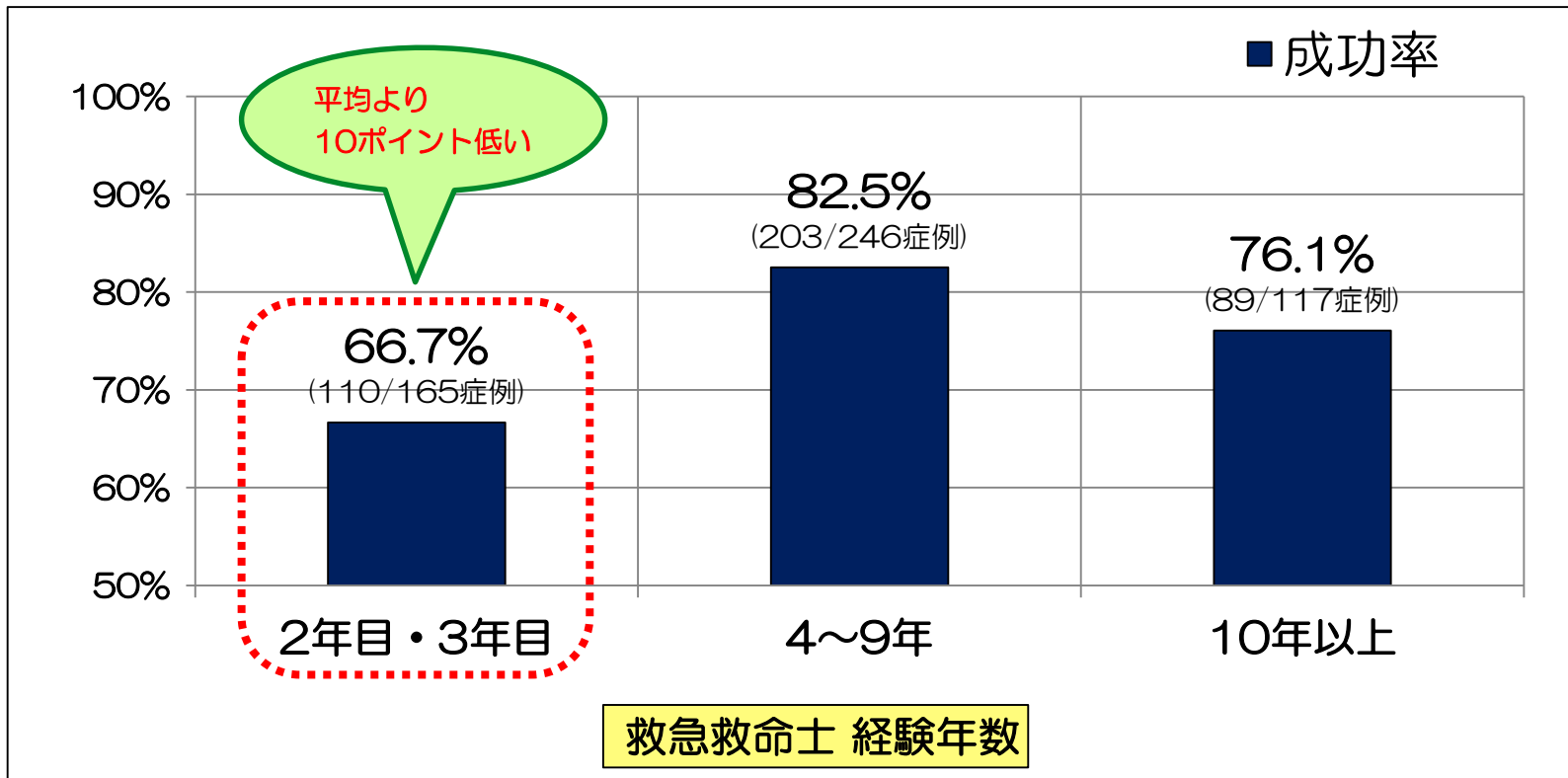
就業者(配置)救急救命士 再教育病院実習 静脈路確保 成功率

【実施時期・実習病院】平成27年度（堺市立総合医療センター）

【実習者数】76名

【静脈路確保実習実施数】全528症例 1人あたり平均6.9症例

【成功率】平均76.1%



【教育体制の確立Ⅱ】

新規救命士以外の救急救命士に対する教育体制（工夫）



1. 救急救命士資格を有して入局してきた職員への教育

【就業前教育】 入局から1～2年後・・・

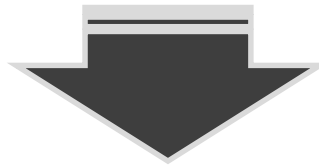
27日間の集中教育（計216時間）⇒ 救急ワークステーション 56時間 + 堺市立総合医療センター 160時間

2. 救急業務に従事していない救急救命士への再教育（総務課、予防課員など）

【再教育病院実習】

本来業務を優先しつつ、再教育病院実習を実施

⇒ 救急ワークステーション + 堺市立総合医療センター = 最大64時間/2年（努力義務）



メリット

☞ MC医師・看護師のほか、救急ワークステーションの指導救命士により教育

- 個々のレベルに合わせた教育（病院交渉要領、プロトコルの変更点など）
- 実習前に、毎回、指導救命士から特定行為手技などのチェックを行った後に実習開始
- 実習中も、必要に応じて指導救命士が院内へ付き添いサポート



1. 救急救命士

【就業前教育】

27日

救急業務に就いていない  
救急救命士に対して実習を行う効果

50時間

2. 救

- ① 知識・技術の維持向上
- ② 不安解消 ⇒ 自信
- ③ 病院実習の安全性を確保
- ④ 組織力アップ  
(非常時の救急隊編成にも即応できる)

(業務)

メリット

☞ MC医師・看護師

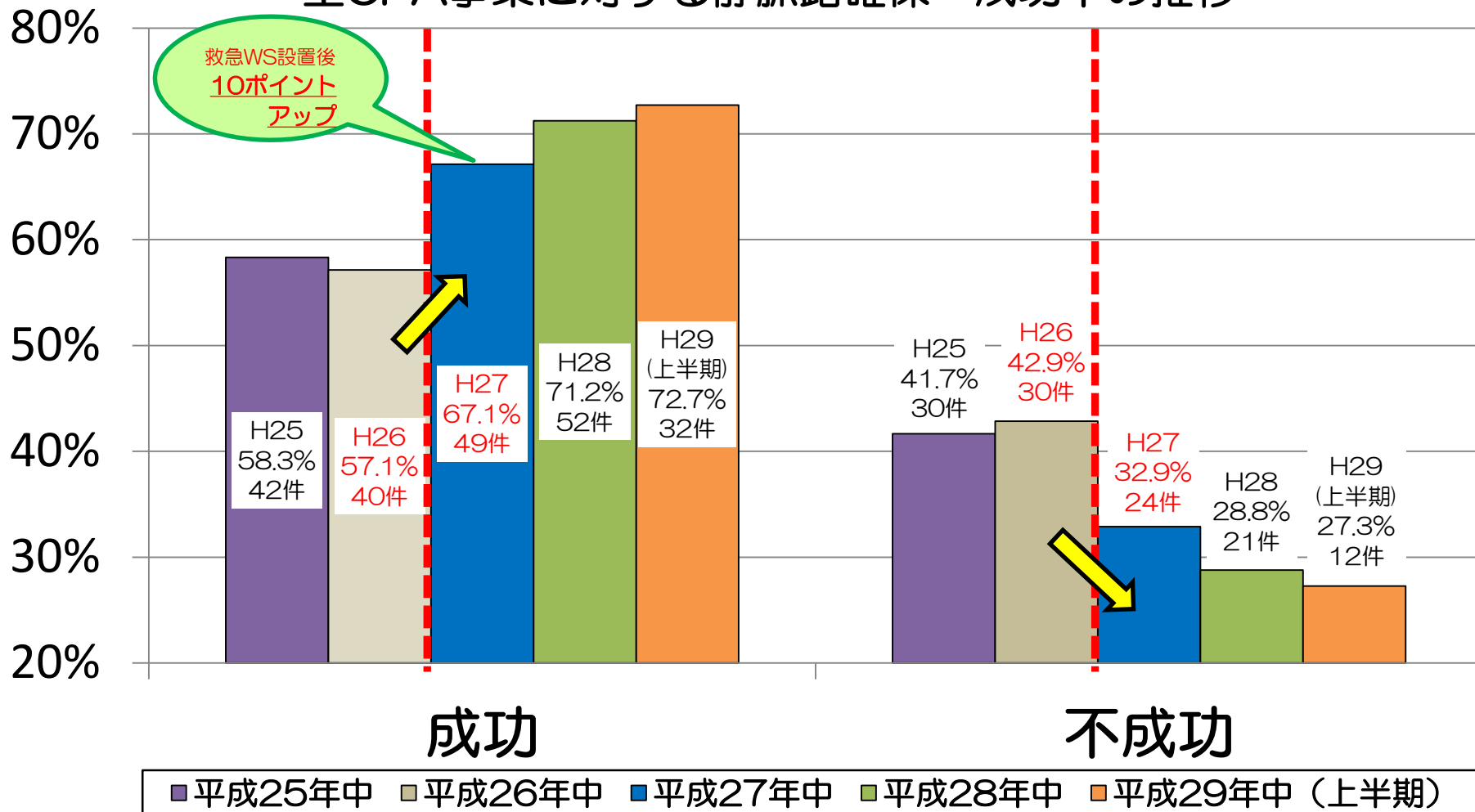
- 個々のレベルに合わせた教育（教育内容の変更点など）
- 実習前に、毎回、指導救命士から特定行為手技などのチェックを行った後に実習開始
- 実習中も、必要に応じて指導救命士が院内へ付き添いサポート



# 【分析】 教育体制が現場に活かされているか？

平成25年～平成29年（上半期）

## 全CPA事案に対する静脈路確保 成功率の推移



堺市消防局管内 ウツタイン統計より

# まとめ

救急ワークステーションを活用して、

1. 新規救命士に一定期間、集中した静脈路確保実習をさせることで、成功率は85%以上に達した。
2. 救急業務を離れた救急救命士に病院実習をさせることで、技能維持が可能となった。
3. その結果、現場活動中の静脈路確保の成功率が年々、高くなった。
4. 医療機関に集中して詰め、実習を受けさせることで、医療人としての体験が豊かになり、顔の見える形でメディカルコントロールを受けることができるようになった。